



Q 三歳になる子供がいます。来月の三歳児健診の対象となる様ですが、ちようどその日は、用事があつて行けません。どうしても行かなければならないでしょうか。又どのようなことをするのですか?

A 発育発達上、とても大切な時期です。

すくすく大きくなつていくお子さんの発育発達、育児面の心配はありませんか? 三歳児になると、自分のしたい事に対して母親に許可を求める等、対人関係が育ってきます。又でんぐりがえし、ボタンをはめるなどの運動や、高い低いなどの言語理解もできてきます。この様に三歳という時期は、身体発育や神経発達の面からも重要であり、総合的に健康診査をして、その結果により適切な育て方、処置を行つていくことが大切なのです。

具体的な内容は...

問診(お母さんから普段の様子や心配なことを聞く)、歯みがき指導、発達検査、診察(内科、歯科)、スライド「三歳児」、個別相談(必要な児に対して保健婦や心理判定員が行う)をしています。

都留市では、まだまだ受診率が低い

この様に大切な検診であるにもかかわらず、本市では受診する人がまだまだ少ないのが現状です。例えば昭和五十九年度受診率では、日下部保健所管内では九七・八%に對して大月保健所管内では八八・一%さらに本市は八二・七%となっています。

積極的に健診を受けましょう

市では、四カ月、七カ月、一歳六カ月の健診も行っています。この時期は発育発達上ポイントともなる重要な時期です。健診を受けることによって大切な赤ちゃんを継続的に見ていくことができ、様々な相談をすることもできます。

健診の日に都合が悪い時は、翌月でもかまいません。その場合、日程は広報や保健事業予定表を見て下さい。積極的に健診を受けましょう。

成人病総合検診を終えて

七月一日から十日間に渡り、成人病総合検診を行いました。酷暑の中、一、四一〇人が自分の健康を確認しました。

受診者は、昨年に比べ二六七人増え、全体的にこの地区も増加しています。中でも禾生地区、盛里地区の増加率は目ざましいものがありました。

異常がなかった人は 五人に二人ノ

今年度の検診結果をみるとまったく異常のなかった人は全体の三九・三%で、五人に二人でした。これを地区別にみると図のようになります。

異常がなかった人の多い地区は、宝(四四・五%)、盛里(四三%)、開地(四二・五%)、少ない地区は、禾生(三〇・九%)でした。

肥満・血圧・コレステ

ロールは減らないノ

検査項目別に結果をみると昨年同様、異常者が一番多かったのは肥満(三八・二%)、ついで血圧(二八・二%)、コレステロール(一六・七%)の順です。これらも地区別にみるとかなりの差があります。肥満についてみると、多い

地区は開地(四六%)、少ない地区は下谷(三一・三%)です。しかし、これらは成人病検診を受けた人、一、四一〇人の結果ですので、その地区全体の特徴とはいきれませんが、これからは、一人でも多くの方が検診を受けることによって、その地区の特徴がはっきりしてきます。

大切なのは検診を受けたあとですノ

検診の結果、精密検査を受けるようにすすめたところ、「どこも悪くないので、病院に行かなくてもいいですか」とか「精密検査をして何千円もお金を払ったので、検診を受

けなきゃよかった」という人が何人かいました。

「検診は何故必要なのでしょう?」

「検査は誰のために行うのか?」

「検査は誰のために行うのか?」

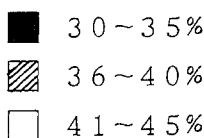
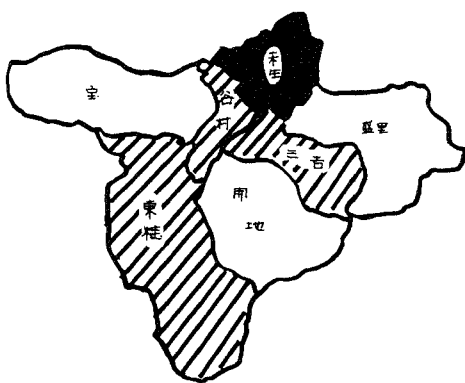
「検査は誰のために行うのか?」

たとえ精密検査の結果、異常がないと言われても、健康の確認ができたということに、努力する必要があると思います。受診したら、その結果をその後生活に役立てることが大切です。まだ精密検査を受けていない人は積極的に受けましょう。

なお、気になる場所がありましたら、保健環境課までご相談下さい。

《地区別正常者の割合》

S 60成人病検診結果より



(受診者に対する異常がなかった人の率)